



# 山口としや 通信 第35号

## もうしばらく、我慢です

コロナ感染が止まりません。全国的に第3波と言われていますが、この後、どうなるのか予測できません。はやければ2月にはワクチンの接種が始まるとはいえ、すぐに、元通りの生活にもどるとは考えられません。

そんな中、私たち市民ができることは、感染防止対策しかありません。マスク着用、手洗い、ソーシャルディスタンスをとることです。しばらくこの状況が続くと考えられますが、なんとか乗りきろうではありませんか。

フェイスシールドをしての街直です。

ブログ読んで下さい！



## 2020年12月議会報告

# 新型コロナウイルスを正しく恐れよう

(質問) コロナ対策はしばらく続く。市役所内に部局横断的なコロナ対策室を設置し、素早い情報収集と市民への情報提供の一元化を図っては。

→ (副市長) 本年3月13日に、市長を本部長とする全庁体制での新型コロナウイルス感染症対策本部会議を設置し、迅速な意思決定を行い、速やかに対策を実施してきました。現在、通常業務とコロナ対策については、現体制で両立できると考えている。

(質問) いろいろな情報が錯綜している。市民の皆さんが不安に思っている、細かい点まで、情報を提供する部局が必要では。

→ (副市長) 現在、国や県からの情報は、それぞれの担当部署に入っている。本部会議は危機管理課が所管しており、危機管理課が、市長の決裁を仰ぎ、速やかに事業化している。情報として、広報やホームページを活用し、町内の回覧も利用している。

従って、現状の中では現体制で行えると

考えている。

(質問) 県は感染拡大防止対策支援金制度をつくり、各企業の感染拡大防止策の補助をしてきたが、11月末で終了した。しかし、十分な感染対策が取れるよう、市で感染拡大防止対策支援金制度をつくり、感染拡大防止策をとるよう促しては。

→ (産業部長) 県の感染拡大防止対策支援金制度は、市内で1097件の申し込みがあり、多くの市内事業者がこの制度を活用したと考えている。国からの財政支援を念頭に、白山商工会議所や各商工会にもその制度の有効性や利用状況を確認し、市でできることを検討していきたい。

(質問) コロナ禍で活動に苦勞されている芸術家支援のため、活動歴や受賞歴、連絡先などを取りまとめ、市のホームページ上で公開する芸術家バンク制度を始めては。

→ (観光文化スポーツ部長) 芸術家バンク制度については、市民への認知度を高め、

活動の幅が広がることが考えられる。今後、市文化協会と連携し、芸術家バンク制度について、先進地の事例を参考にしながら研究していきたい。

(質問) コロナ禍において、伝統産業も苦勞している。そのような中、市内7業種の県指定の伝統工芸産業により、白山市伝統産業振興協会が設立された。市として、支援すべきでは。

→(観光文化スポーツ部長) 伝統工芸には、産業と伝統文化の両面があり、産業部と観光文化スポーツ部がしっかりと連携し、支援していきたい。

2021年1月に市民工房うるわしにて、伝統産業振興協会と協力して、白山市の伝統工芸展を開催し、広報はくさん1月号に7業種について掲載する。

(質問) 7業種以外にも伝統工芸産業が存在する。市として伝統工芸産業の認定制度を設立し、とりあえず、県指定の7業種を指定しては。



伝統産業の一つ、「太鼓」

→(観光文化スポーツ部長) 市として、新たに認定を行うことが事業者にとって有効な後押しとなるか、

伝統産業振興協会と協議し、検討していきたい。また、市として守るべき工芸については、市での伝統工芸として認定することも踏まえ、県や伝統産業振興協会と協議し、検討していきたい。

(質問) 県指定の伝統工芸産業の紹介を市役所内で行えないか。

→(観光文化スポーツ部長) 現在、加賀獅子、太鼓、美川刺繍を紹介しているが、他の業種を含め、市内の伝統文化を紹介できないか、工夫したい。

(質問) コロナ禍での住宅確保に、市営住宅を借りる時の連帯保証人を廃止しては。

→(建設部長) 2018年3月に国土交通省住宅局長通知では、連帯保証人を確保できないために入居できない事態が生じないようにしていくことが必要としている。やむを得ず連帯保証人を確保できない場合は、家賃債務保証業者の機関保証を活用できるように、2020年4月に条例を改正した。

(質問) ホームページに連帯保証人が見つからない方は原則入居申込みできませんとなっているが、原則連帯保証人は必要ないのではないか。

→(建設部長) ホームページ上で、家賃債務保証業者の機関保証が使えることがわかるよう工夫したい。

(質問) コロナとの共生を考えると、高齢者の買い物支援は大変有意義。コープいしかわは買い物にお困りの高齢者を支援する事業連携協定を金沢市と提携している。本市も協定を結んでは。

→(健康福祉部長) 市として、生活支援サポーターが支援している。また、民間でも宅配サービスや移動販売を行っている。また、送迎サービスも行っている。

現時点では事業連携協定の締結は考えていないが、相談があれば、生活支援サポーターの活動や民間の取り組みをお知らせしたい。また、今後、買い物支援をしている民間業者との連絡会を新たに開催し、対象区域や協力事業所の拡大など、高齢者の買い物支援の充実に努めたい。

(質問) 民間との連絡会を開催するとのことだが、官民あわせたチラシをつくっては。

→(健康福祉部長) 連絡会の中で、どこまでできるか調整をしながら、ある程度まとまる形になれば、市民の方に広くお知らせしたい。

**としゃチェック** コロナとの共生の中で、困っている市民の方がいらっしゃいます。財政的な支援だけでなく、様々な制度で支援が可能ではないかと考えます。

## 公園などの樹木管理は大丈夫?

(質問) 2016年に樹木管理内容を削減したが、以前に戻しては。

→(建設部長) 2016年に人件費の高騰が見込みを大きく上回り、樹木の管理水準を

下げた。昨年から改善を図っている。徐々に、樹木管理の適正化に向けて取り組んでいる。

（質問）担当課によって、発注の仕様が違っている。統一しては。

→（建設部長）交通への影響のない場所は、公園緑地課と同じ発注仕様を行うよう、アドバイスするなど、積極的に使用の統一を働きかけている。

（質問）高木剪定について、民間業者と協議する必要があるのでは。

→（市長）高木の維持管理については、専門的な知識が必要なので、専門家のア



市民生活に潤いを与えます。

ドバイスを受けたい。また、別枠で予算を

確保できないか検討していきたい。

（質問）高木剪定は市民ボランティアではなく、業者に任せるべきでは。

→（市長）高木剪定は、安全確保が第一なので、基本的に専門業者をお願いしている。

（質問）コロナとの共生を考えると、魅力的な公園にすべき。遊具の総点検をし、修理が必要なものは修理しては。

→（建設部長）公園施設長寿命化計画を基本に、計画的に修繕や更新を進めている。現在は、令和3年度までの計画で、今その見直しを行っている。その中で、遊具の新設改良修繕を早め実施できるよう盛り込んでいきたい。

（質問）コロナとの共生を考えると、魅力ある公園は必要。別予算で踏み込んで整備できないか。

→（建設部長）修繕計画に基づいて整備したい。

**としゃ千エック** 樹木は市民の皆さんに、潤いと安らぎを与えるものではないでしょうか。市はしっかりとした管理を責任を持って行うべきでだと思います。

## 体育施設整備、クマ対策を問う

（質問）体育施設の整備について、国際・全国大会開催を優先順位の上位にすべきであり、開催予定の松任総合運動公園体育館や、白峰スキー競技場を優先すべきでは。

（市長）体育施設については、利用頻度、利用状況を考慮し、計画的に修繕・改修を実施している。

松任総合運動公園では、来年度、全国高等学校総合体育大会なぎなた競技が開催予定。白峰スキー競技場では、国際大会である FIS ファーイーストカップの開催の予定。このことから、施設整備については、安全に利用できる環境の提供を最優先に、市体育協会や各種競技団体と連携し、協議し、順次進めていきたい。

（質問）クマ対策として頭数のコントロールが必要。県にしっかりとしたクマの頭数把握と、狩猟頭数の決定を求めるべきでは。

→（市長）県に、精度の高い生息数調査を行うよう、要望する。なお、今年の捕獲頭数については、126 頭から 250 頭に修正い

ただいた。今後も柔軟な対応をお願いしたい。

（質問）エサとなるブナなどの不作の年は、夏の調査でわかると聞いている。不作の年は、里山や森林と民家との境界の手入れをしっかりとできるような体制整備を。

→（市長）2018 年より、森林環境基金による緩衝帯整備事業として、集落の山際の下草刈りや雑木の伐採を行っている。今後も、対象となる地域には、積極的に取り組んでいただけるよう働きかけていきたい。

（質問）緩衝帯整備事業以外にも、市で整備をする補助制度をつくっては。

→（産業部長）緩衝帯整備事業にまずしっかりと取り組んでいきたい。

（質問）森林と民家との境界にクマ止め林として、柿や栗などを植えて、それ以上クマが民家に近づかないようにしていた。クマ止め林について研究しては。

→（産業部長）クマを呼び寄せせる可能性もあるが、研究してみたい。

体育施設整備には、多くの予算が必要です。優先順位をつけて取り組むべきと考えます。また、今年はクマの出没が多くあり、ケガをされた方もいらっしゃいます。抜本的な対策を求めています。

## コロナ禍での学校生活の支援のために

(質問) 保育所、学童クラブ、小中学校あるいは介護施設などへ消毒液などの配備を今年度はコロナ対策で、別予算で行った。来年度も別予算で行うべきでは。

→(市長) 来年度の予算編成方針において、従来の事業費とは別枠とし、かつ要求の上限も設けないこととしている。感染防止対策に万全の対策をしてきたい。そのためにも、国において追加の交付金が措置されることを強く要望している。

(質問) オンライン会議や研修を進めては。



タブレットを使用しての授業が当たり前?

→(教育長) 市教委が主催の会議や研修について、オンラインでの実施を予定しているものもある。今後、

更なる活用を進めていきたい。

→(総務部長) オンラインの会議や研修を行っている。今後増えると予想されており、更なる活用について研究したい。

(質問) コロナ対応のスクールサポートスタッフの配置を来年度も継続すべきでは。

→(教育長) 教員の負担も軽減され、学校からたいへん助かっているとの声を聞いている。来年度も引き続き全校配置していきたいので、国県の動向を注視していきたい。

(質問) オンライン授業に備えて、GIGAスクール構想をまえ倒ししたが、先生方の研修がなかなか追いついていないと聞いている。機器を有効活用するためには、ICTの専門家を来年度全校に常駐させては。

→(教育長) 教員の研修を現在実施している。今年度は月2回、ICTサポーターを派遣しているが、特に来年度の1学期は、派遣する日数を増やすことを検討している。

ただし、それでも全てをカバーすることは難しいと思うので納入業者にサポートデスクを設置し、いつでも対応できるようにすることも計画している。しっかりとサポートしていきたい。

(質問) どの程度増やすのか。

→(教育長) 月2回の配置を考えている。

(質問) オンライン研修にすると、旅費もかからず、すぐに業務に戻れるなど、メリットが大きい。オンライン研修の割合を増やすべきでは。

→(教育長) 100%は難しいが、なるべくオンライン研修を進めたい。

(質問) 個に応じた教育の充実のため、特別支援教育支援員を学校が求める人数配置すべきでは。

→(教育長) 現在61名を配置している。今後も、必要人数の確保に努めたい。

(質問) コロナ禍で、登校を渋る子も増えていると聞く。不登校傾向の子に対応する支援員を配置する制度を新設しては。

→(教育長) スクールソーシャルワーカーを有効に活用していきたい。

(質問) 今年度、教職員の時間外労働時間を月80時間以上を0人にするとする県の目標は達成できるのか。

→(教育長) 達成できないのが現状である。教材研究や、ICTの活用への対応、生徒指導や保護者対応、部活指導が理由と考えられる。

全国的には、小中学校でもコロナ感染のクラスターが発生しています。感染拡大防止と学ぶ機会の確保の両立は大変難しいですが、市としてできることを提案していきます。